龍羽ワタナベ

台湾伝承占術講座
「病占編」

Website : https://www.ryuhawatanabe.com
E-Mail : officeryuha@gmail.com
無断転載を固く禁じます

はじめに

◆**醫易同源**—易学と醫学とが同じ理論・同じ源をなすものであるということ
◆**五術「命ト相醫山」**・・・四柱推命などの命術、易占などの卜術、手相などの相術、中醫などの醫術、養生方法などの山術

国学文化工作室のサイトより拝借　※阴阳⇒陰陽

◆中醫の中にある易経の考え方
・陰陽説を基とする
易経の基本は「太極」である。太極図は、「この世の中には、陰と陽があり、陰の中に陽が、陽の中に陰がある、そして相互に分割、浸透し合っている」ことをあらわしている⇒**陰陽説**

この陰陽説が中国の伝統的哲学においてのすべての基本となり、中醫とその養生学の理論の元となっている。つまり中醫における身体論は、患者の体質や病の状態を「陰陽」で診断するのを基本とする。わかりやすいところでは、暑がりか寒がりかの「寒熱」の診断は陰陽の基本的考え方からきている。
そして、陰陽の調和の循環を重要視していて、その循環がおかしくなると病気になる、と考える。つまり中醫は陰陽を調整し、陰平陽密の均衡状態に戻すことを良しとするが、五行説を取り入れてからは、その理論はより完全なものとなった⇒陰陽五行説

※男が陽、女が陰
背が陽、腹が陰
体の表面が陽、内臓が陰
六腑が陽、五臓が陰

・「黄帝内経（こうていだいけい）」は、易経とほぼ同じ時期に成立した医学書で、易学の考え方を応用している。
・「易」はすべての「人事」とすべての「自然」を対象とした哲学といえ、「占い」は「人事」を対象にし、「医学」は「自然」を対象としている。

1，病気を鑑定する際の(病占)の心構え

- 病占は、場合によっては生命にもかかわることを占うのであり、人知に及ばないことを易の神様に問うことから、誠実な態度と気持ちを持ち、また病人や家族の気持ちに気遣いすること。
- 病名や治療法を断定することは法律上、医師にしか許されていない行為であること忘れてはならない。
- 昔ならともかく、これだけ医学が発達した現代は、検査等で病名も明らかになることがほとんどであることから、医師の診断や病人の症状がまず前提となる。このことから、病占は次に説明する「特別な方法」で易占いをする
- とは言え、医師にも診断がつかない奇病や難病、珍病もあるので、その際は通常の「易占」で病名や状況を問うこと問題ない

※

病気を鑑定する際には、医師の診断等を元に**「特別な方法」**で卦を出し、判断をする。
全く病名等見当がつかない時は通常のとおりサイコロや筮竹コイン、カードを使用して卦を出す

上卦／下卦	坤(地)	艮(山)	坎(水)	巽(風)	震(雷)	離(火)	兌(澤)	乾(天)
乾(天)	地天泰（泰平）	山天大畜（蓄積）	水天需（待機）	風天小畜（障害）	雷天大壮（隆盛）	火天大有（富裕）	澤天夬（決断）	乾為天（上昇）
兌(澤)	地澤臨（希望）	山澤損（損得）	水澤節（節制）	風澤中孚（誠実）	雷澤帰妹（不調和）	火澤睽（反目）	兌為澤（悦楽）	天澤履（礼節）
離(火)	地火明夷（暗黒）	山火賁（装飾）	水火既済（完成）	風火家人（家庭）	雷火豊（豊富）	離為火（麗火）	澤火革（随行）	天火同人（協力）
震(雷)	地雷復（復活）	山雷頤（養う）	水雷屯（伸び悩み）	風雷益（有益）	震為雷（激震）	火雷噬嗑（障害）	澤雷随（上昇）	天雷无妄（自然体）
巽(風)	地風升（上昇）	山風蠱（腐敗）	水風井（継続）	巽為風（動揺）	雷風恒（恒久）	火風鼎（安定）	澤風大過（過剰）	天風姤（出会い）
坎(水)	地水師（争い）	山水蒙（曖昧）	坎為水（困難）	風水渙（分散）	雷水解（解消）	火水未済（未完成）	澤水困（困窮）	天水訟（衝突）
艮(山)	地山謙（謙虚）	艮為山（不動）	水山蹇（受難）	風山漸（漸進）	雷山小過（過信）	火山旅（不安定）	澤山咸（感性）	天山遯（隠遁）
坤(地)	坤為地（従順）	山地剥（崩壊）	水地比（親和）	風地観（観察）	雷地予（喜び）	火地晋（前進）	澤地萃（集まる）	天地否（閉塞）

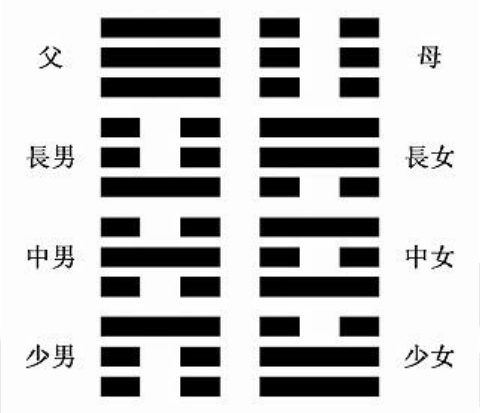
2，八卦

乾（けん）天・兌（だ）澤・離（り）火・震（しん）雷・巽（そん）風・坎（かん）水・艮（ごん）山・坤（こん）地

『易経』は、まず伏羲が八卦をつくり、周の文王がこれに卦辞を作ったという。この伝承にもとづき南宋の朱熹は、繫辞上伝にある「太極−両儀−四象−八卦」の生成論による「**乾兌離震巽坎艮坤**」の順序を伏羲が天地自然に象って卦を作ったことに見立てて伏羲先天八卦とし、説卦伝にある「父母−長男長女−中男中女−少男少女」の生成論にもとづく「**乾坤震巽坎離艮兌**」の順序を文王が人々に倫理道徳を示すために卦辞を作ったことに見立てて文王後天八卦とした。これにもとづいて配置された図を先天図・後天図という。

※「先天為体、後天為用」

	卦名	自然	家族	人象	属性	身体	先天方位	後天方位	先天序数	後天序数	性質
☰	乾	天	父	君子・夫・社長	健	頭	東	南	3	6	全てが陽の爻で成り立っているので、純陽の卦です、剛健なもの、高いもの、大きいものなどを表しています
☱	兌	澤	少女	ホステス・歌手・若い娘	悦	口	北西	北東	7	7	二陽の上に一陰があり、柔が剛の上にあるのが通常ですが、この卦は柔が剛の上にあります。一番上が開いていることから、口を表し、お喋りなどを表しています
☲	離	火	中女	美人・芸能人・文筆家	麗	眼	西	北東	6	5	一陰が二陽の間にあるので、外見に勢いがある様です。明るくて美しいもの、はっきりしているものを表しています
☳	震	雷	長男	行動家・著名人・アナウンサー	動	足	南東	西	2	8	一陽が二陰におさえられている形で、一陽が二陰を跳ね返して上に登ろうとしています。雷は鳴り響くもの、お土置くもの、憤激などを表しています
☴	巽	風	長女	旅人・商人・出家人	入	股	北	南西	8	2	二つの剛陽に一つの柔陰が圧迫されています。よって、風のように動き揺れるもの、心が定まらず、迷いを表しています
☵	坎	水	中男	研究家・悪人・浮気者	陥	耳	南東	北西	1	1	一陽二陰に挟まれてしまい、その陽気を発揮できません。困難や暗いもの、悩み、苦労を表していますが、研究や修行には良い卦です。
☶	艮	山	少男	頑固者・屈強な人・若い男	止	手	南西	南東	5	4	上に昇ろうとする陽爻が一番上に、下に降りようとする陰爻が下にある形から、山のように不動を表しています。止まる、頑固、中止などの意味もあります
☷	坤	地	母	妻・労働者・真面目な人	順	腹	北東	東	4	3	全てが陰の爻の集まりですから、純陰の卦です。柔順、包容力、母なる大地などを表しています



■ 天/乾

脳.顔.首.喉.耳.左肺.中下腹部.頸椎.肋骨.背骨.肩.背.胸.腰.手.足.爪.皮膚.骨髄.血管.血液.脈.リンパ.肛門

✧ 頭部の疾患：乾を頭とすることから。
✧ 胸部疾患：乾を以て五行の金とすることから。肺や心臓を含むが、五臓の中の最も高いところにあり、中心をなすという考えから。
✧ 骨の疾患：坤の肉に対して乾は骨、乾の固いところから。
✧ 浮腫：充実、充満、満盈の乾の象から。
✧ 腫物：癌なども入る。乾の固い、充実、頑固、高いなどの象から。
✧ 精神病：乾を以て頭とし、精神とする。乾の変化、鋭進、壮盛などの象は、精神病の症状といえる。
✧ 大熱：陰の冷に対する陽の熱、陽中の陽、全陽であり、激烈な勢いがあるので、大熱。
✧ 女子の老病：坤は老女の健康の意がある。その裏卦が乾であることから。
✧ 変化激しい病気：天道は変化してやまない。天は縦横無尽にしてさえぎるものがない。

※病勢：非常に激烈で病勢の進行が早い意がある。乾は萬物の始めという意から病気の初期とも見る。又乾の変ずる意から病勢定まりない意も見られる。時期を失わず早い処置が必要

■ 兌/澤

頭.頬.口.唇.舌.喉.扁桃.右肺.腸.陰部.首.肩.背.中下腹部.上肢.肩甲骨.肋骨.皮膚.体毛.血液.リンパ

✧ 口腔内の諸疾患：兌を口とするところから口内炎、歯の疾患、舌の炎症其他。又咽喉の疾病なども入る。又咳、喘息なども要注意。
✧ 胸部の疾病：五行の金で肺にとるころから。肺、肋膜など全ての胸部の病気。
✧ 消化器系統の疾病：兌の飲食の意から胃腸などの消化器系の疾病全て。下痢も含む。
✧ 腎臓、膀胱等の疾病：兌の止水からで、尿道炎なども含む。
✧ 性病：兌を女性器とし誘惑などとするところから性病の全てを含む。又婦人科面の疾病や月経不順なども入る。
✧ 怪我、外傷：兌の毀折の意から傷つくとし、ことに頭部の毀折に注意。兌を刀とするところから剣難と見ることも必要。

※病勢：兌を以て流水を止めた止水と見るので、病気が止まるとし、急速な回復は望めない。止まって永引く勢いと見る。毀折から急変悪化も考えられるが、兌の悦から軽症で意外と回復が早いと見る場合もある。自然治癒力がある。

■　離/火

頭.顔.眼.耳.舌.首.胸.肺.背部.腹部.心臓.腎臓.手.足.皮膚.大動脈.血液.血管.自律神経.精神

✧　目の疾患：離を明るいとし見るとするところから目とする。近眼、老眼、乱視、結膜炎、トラホーム、又目の充血など。さらに色盲、白内障、盲目も入る。

✧　心臓の諸病：離を以て赤色とし血球とする。血を循環させる大もとが心臓なので、離を以て心臓とする。離を以て知恵とし熱とするが、知恵不足のことを"血のめぐりが悪い"などといい、情熱的になったり逆上気味なったりすることから"血の気が多い"とか"血が頭に上った""血迷う"などという。
明智、感情と血とは大いに関係があることがわかる。また離を以て明朗快活とするが、多血質の人は明るく朗らか。口数も多く、離の表現の性情が血の気の少ない人より強く出ることはいうまでもない。

✧　神経系統の疾患：神経は明智のもとで、神経が太い、鈍いということは明智の不足を意味する。特に頭脳の神経系統の障害、疾患に離の象意が大きく現われる。

✧　神経過敏症、発狂、精神錯乱、逆上、神経衰弱、ヒステリー、ノトローゼ、ストレス、視神経、顔面神経痛、妄語、不眠症など。

✧　火傷：離の火、熱から。日射病も含まれる。

✧　乳房の疾病：離の象は、陽は円で陰は黒点即ち◎の象から取ったと思われる。乳腫れ、乳線炎、乳癌など全て乳房の疾患とする。

✧　其他不食、便秘、熱の出る病状などの意がある。

※病勢：何より熱が上昇することが第一。その為意識混濁するとか逆上するといったことになり、浮動して急激に変化する。悪化したり熱が下がったとたんに好転する、といった定まりない動き方をし、油断はならない。医師の診断治療にゆだねると吉

■　震/雷

眼.喉.胸.背.上腹部.足.筋肉.爪.皮膚.声帯.精神

✧　精神病：逆上、発狂、神経衰弱、ノイローゼ、ヒステリー、てんかんなどで激怒や騒がしさを伴う症状。

✧　肝臓、胆臓：震は五行の木星、木星を以て肝臓、胆臓とする。

✧　声帯、咽喉の疾病：震を以て声、音とするので声枯れ、咽喉の炎症など。

✧　足の疾患：脚気、筋違い、筋肉の腫れ、また打撲などによる諸疾患。

✧　外傷：震を以て速いとし、乗物とする。また性急とし躁急と急進、決断とするので、交通事故を注意する必要がある。事故でもスピードの出し過ぎが原因となることが多く、暴走して衝突といった象がみられる。

※病勢：突発的であったり、急激に症状が進行したりするのが震の特徴。疼痛が激しいとか、けいれんを伴うことが多く、患者も激しい苦痛を訴えたりするが、症状程病状は重くないのがふつう。一時的にひどい症状を呈すが、翌日には嘘のように平静になるといった変化が多いのも特徴で、看病する者を驚かせる。しかし軽視してよいというわけでなく、患者を安静にするように看病する事が大切。この卦は一陽が長じていく形をなしているので油断すると進行も早いことになる。早い処置と対応が必要

■　巽/風

顔.眼.胸.腸.腹部.背.肋間.腰.臀部.鼠径部.肘.足.筋肉.皮膚.爪.髪.神経

✧　風邪：巽を以て風とすることから、小児痲痺：風の象意から。足もと不安定の意などからも見る。
✧　中風：風の象意から。卒中なども含まれる。
✧　憂鬱症、ヒステリー、神経衰弱―不決断、出入、迷、従などから精神風の如く安定せずあれこれと気迷い多い。
✧　肝臓、胆臓の疾病：五行の木の意から。
✧　伝染性疾患：風の流れる、伏入の意から全ての伝染病の疾患と見る。
✧　神経痛：風の伝達、流れる意から神経と見る。
✧　腸の疾病：巽を長いとするところから。
✧　婦人科、性病、痔：巽を股とするところから。
✧　陰萎：軽いとし、不決断とし迷いとし不安定とすることから、また震の壮健に対して。
✧　遺毒：親から受け継いだ病毒で風の伏入していることから。

※病勢：進退定まらずで、一進一退、また伏入して長病となるとか薬効不明瞭。効果がなければ医者を変える必要あり

■　坎/水

耳.背.脇腹.中下腹部.腰.呼吸器.肝臓.腎臓.前立腺.泌尿器.生殖器.肛門.鼠径部.手.足.指.皮膚

✧　腎臓、膀胱、尿道炎などの疾病：坎を水とするところから。五行では水は腎とする。
✧　血液病：右の意と同じ。下血、月経異常、血塊などとも見る。
✧　生殖器の疾患：坎を水とし暗いとし、淫とし暗いとし妊とするところから。性病も入る。
✧　痔：坎の穴とし下とするところから。
✧　食物中毒、薬物中毒――坎を毒とし害とし悪とし敗とすることから、ニコチン中毒、アルコール中毒、シンナー中毒、麻薬中毒なども含む。
✧　下痢：坎を水とするところから。
✧　耳病：坎を穴とするとこから。鼻の中の疾病も入る。
✧　背骨の疾病：坎は肉体の中を一陽が貫いている象から背骨の象とする。二陰は腎ともする。

※病勢：下痢したり、疲労困憊したり、悪寒、激痛を伴いがちで、病根深くなかなか治らない。治療法などもどこか合わない面があるとか、病因を発見できない、といった傾向も見られる。冷やしたり寒気を感じる状態は最も悪く病勢を亢進させる原因となる。多くの人の協力が必要

■　艮/山

鼻.口.唇.喉.首.肩.胸.みぞおち.心窩部.肺.食道.胃腸.上下腹部.背.腰.陰部.手.手指.足指.関節.皮膚.血液

✧　脾臓、胃の疾病：坤と同様に五行の土星から。

✧　不食、食滞：不食は長の黙の意から口を閉じて食べないとする。食滞も良の止まる意から。

✧　鼻の疾病：艮の山の象から鼻とする。蓄膿症から鼻の痛みなど全てを含む。

✧　手、足の疾病—手はつかむことから艮の止まる意を以て手とし、足は良の立つ意、また艮の一陽を腰、二陰を足とすることから。

✧　肩、腰の疾病：肩も腰も良の高い、止まる、固い意から。肩凝り、腰の不随などには艮の止まる不動の意がそのまま現われている。転落、衝突などによる全ての打撲症。

✧　関節の疾病：艮を節とし継ぎ目とするところから、全ての関節炎、痛みなどを含む。

✧　血行不順：艮の止まる意、遅、滞の意から。

✧　腫物、腫瘍：身体の外部、内部を問わず、山の象から腫れ物とし癌とも見る。

※病勢：息激に悪くなることは少なく、多くは病因が深く止まって、頑固で病疾化する傾向もあり、薬効がなかなか現われない。また頑固から医者や周囲のいうことを聞かず、栄養を取らないとか、黙して語らずとか、そういうことから次第に衰弱していくことになる。病変の処置と予後の安静が大切

■　坤/地

脳.眼.口.唇.胸.心臓.胃.腸.上下腹.肋骨.筋肉.関節.手足.皮膚.血液

✧　腹部の疾患：坤を腹部とし消化器とし脾、胃とするところから消化器全ての疾患、下痢、腹痛までを含む。胃腸、胃潰瘍、食あたり、消化不良、胃拡張、腸チプス等。

✧　皮膚の疾患：乾の骨に対して坤は肉だが、坤の包む意から化膿性を除く皮膚の疾患全てを含む。にきび、そばかす、しみ、いぼ、あざ、ほくろ、かぶれ。水虫などは坎の象となる。

✧　精気虚損、消耗：乾は剛健、壮盛だが、坤はそれに対する意から。坤には労する意、衰微の意のあることは概念から

✧　働き過ぎによる過労、倦怠感も含まれる。意気上らず若さがなく何事にもやる気をなくした状態。

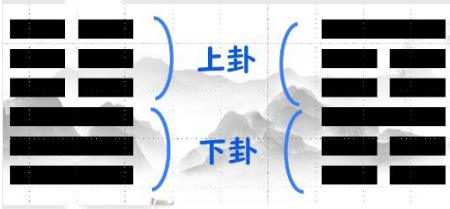
✧　男の老病：右の意から若さを失って、老化現象が見えている象。

※病勢：乾は激しく進行していく象意があるが、坤は病勢は緩慢。しかし内部に定着しているとか痛疾化している象もある。薬は適していれば吸収して効果が早いが、効果が見えない場合は病気が薬に応じていない、あっていかないと見ていくことができる。また、老婦人の場合には坤が老婦の意から健康の常態と見て、変じて坤になれば回復すると見ることがある。医療過多のこともある

3、病占ならではの卦の出し方

◆卦の出し方

上卦（占う年月日）—病人の現在の精神力や病勢
下卦（身体の疾病）—肉体及び疾病の診断名と症状（不明の場合は病人の生年月日）



上卦を外卦（がいか）、下卦のことを内卦（ないか）ともいう

【上卦の出し方】
●占う年月日を年は西暦を使用し、年と月と日を全部足す
　→足した合計を8で割り、余った数を八卦に該当させる。
　※余りは1→乾、2→兌、3→離、4→震、5→巽、6→坎、7→艮、なし→坤

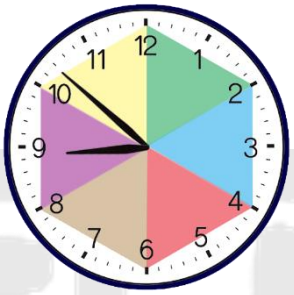
例）占う年月日　20220316＝16　16÷8＝2あまり0　坤/地
　　占う年月日　20220508＝19　19÷8＝2あまり3　離/火
　　占う年月日　20230424＝17　17÷8＝2あまり2　兌/澤
【下卦の出し方】
A）病名や病状から「別表」を参考にして、八卦を決める
B）病名が分からない場合や奇病などの場合は、患者当人の生年月日から八卦をだす。
※当人の生年月日から八卦を出す　196438＝31÷8＝3あまり7艮

1.【得卦】（とくか）
上卦と下卦を組み合わせて、六十四卦のどれになるか？
例
2022 年 4 月 14 日　リウマチの患者
上卦：2＋2＋2＋4＋1＋4＝15　15÷8＝1あまり7　艮/山
下卦：リウマチ→艮/山
→艮為山
→卦の意味を解読する

※易の中級者以上は下記も参考にする
2.【伏卦（裏卦）】→現病との因果関係（得卦の反対の卦）
例）艮為山のそれぞれの陰陽を変える→兌為澤

3.【之卦】→今後の展開、病気の動き（変爻によって出た卦のこと（得卦から一か所の爻の陰陽を入れ替えてできた卦）

現在の時間の時計の長針から変爻させる爻をきめる



12 時－2 時　初爻
2 時－4 時　二爻
4 時－6 時　三爻
6 時－8 時　四爻
8 時－10 時　五爻
10 時－12 時　上爻

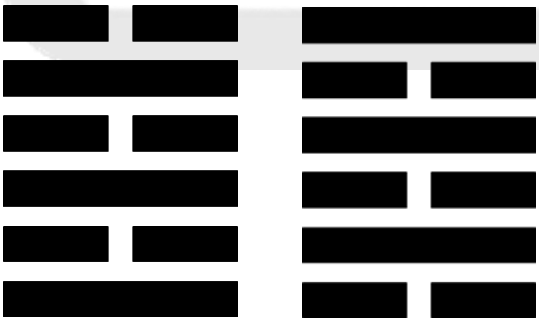
例）3:45　45 分→「8時－10 時」→5爻
艮為山の5爻の陰を陽に変える→風山漸

4.【似卦・大卦】→本卦の象意と八卦の象意も併用してみる
例）

雷山小過　　坎

【判断基準】
①得卦・・・現在の様子を知る
◆初爻から上爻までの六つの爻には、陰と陽の定まった位置がある。初爻から順番に陽陰陽陰陽陰が定位となり、出た卦の定位の状態を見る。

爻の定位（正）
定位　吉　　不定位　凶



1)定位（正） →吉　　不定位（不正） →凶
2)初爻と三爻が陽は剛正（重剛）/四爻と上爻が陰は柔正（重陰） →吉
3)応爻　初爻と四爻が陽と陰/三爻と上爻が陽と陰　 →吉
　初爻と四爻/三爻と上爻が陽と陰で応じない　 →凶（乾為天と坤為地は例外）
4)1）で定位か不定位を見たが、二爻が陰、五爻が陽となっていれば、不正が弱まり、凶とならない。
5）4）のような場合は、中正といい、病占においては医療や薬が適切である、と判断する
6）中でも正でもない場合を不中正といい凶。初三爻が陰で四上爻が陽の場合大凶　→感染症や急性病等の病勢が強い
②伏卦（裏卦・錯卦）・・・隠れているかもしれない何かを見る
③之卦・・・今後の展開を見る
（④似卦・大卦・・・得卦の全体像を知る・・・必ずあるわけではない）

■帰魂卦（五爻変じると、上卦と下卦が同じ八卦（純卦）となる。
天火同人、火天大有、雷澤歸妹、澤雷隨、山風蠱、風山漸、地水師、水地比
重病者を占ってこれらが出たら、覚悟が必要

■遊魂卦（五爻変じると、上卦と下卦が裏表になる卦）
火地晉、地火明夷、風澤中孚、澤風大過、山雷頤、天水訟、水天需、雷山小過
急性病、慢性病を問わずこれらが出たら、かなり重症。時として意識障害や精神錯乱、昏睡状態に陥ることもある。
※この卦が出たら、霊的な憑依なども考えられる卦、お墓参りを必ず！

■八純卦
乾為天、兌為澤、離為火、震為雷、巽為風、坎為水、艮為山、坤為地
病人にこの卦が出たら、平癒困難、経過不良
（爻が変じて出た卦、之卦が出てもそう）

■墳墓卦
天地否、雷山小過、澤地萃、地水師、雷地豫
重症者を占ってこれらの卦が出たら、根治不良、手遅れで快復の望み薄し

■症状悪化の卦
重病者を占ってこれらの卦が出たら、治癒困難で長引く傾向、死を意味することもあり
山地剥、澤火革、澤天夬、火澤睽、天山遯、火水未斉、水火既済

【例1】2022 年 8 月 7 日 14 時 5 分　日射病　70 歳代男性

上卦→20220807＝21　21÷8＝2あまり5　巽/風

下卦→日射病なので離/火

1．得卦：風火家人 37→油断してはならない

　初爻と三爻が陽で初爻と四爻が陽陰で応じている→まあまあ

2．伏卦：雷水解 40→油断すると悪化

3．之卦：5 分は長針は初爻変更の場所にあるので、風山漸 53→病勢は次第に激しくなる

結論：たかが日射病と高を括っていたが、意識が朦朧としてきた様で、病院に搬送し、点滴

1　　2　　3

【例2】2022 年 10 月 5 日 22 時 2 分　乳がん　40 歳代女性

上卦→20221005＝12÷8＝1あまり4　震/雷

下卦→乳がんなので艮/山

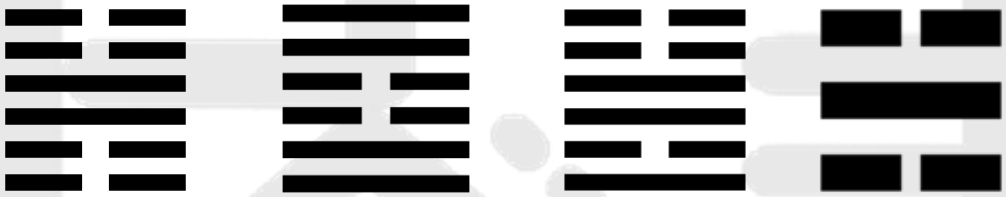
徳卦：雷山小過 62→重病、長引く、遊魂卦、墳墓卦

伏卦：風沢中孚 61→熱、病勢、遊魂卦

之卦：2分は長針は初爻変更の場所にあるので、火山旅 56→重病人の場合には旅路の覚悟

似卦：坎/水→最も悪く･･･

結論：回復することはなかった



1　　2　　3

4, 六十四卦

上卦 ＼ 下卦	乾（天）	兌（澤）	離（火）	震（雷）	巽（風）	坎（水）	艮（山）	坤（地）
乾（天）	乾為天（上昇）	澤天夬（決断）	火天大有（富裕）	雷天大壮（隆盛）	風天小畜（障害）	水天需（待機）	山天大畜（蓄積）	地天泰（泰平）
兌（澤）	天澤履（礼節）	兌為澤（悦楽）	火澤睽（反目）	雷澤帰妹（不調和）	風澤中孚（誠実）	水澤節（節制）	山澤損（損得）	地澤臨（希望）
離（火）	天火同人（協力）	澤火革（随行）	離為火（麗火）	雷火豊（豊富）	風火家人（家庭）	水火既済（完成）	山火賁（装飾）	地火明夷（暗黒）
震（雷）	天雷无妄（自然体）	澤雷随（上昇）	火雷噬嗑（障害）	震為雷（激震）	風雷益（有益）	水雷屯（伸び悩み）	山雷頤（養う）	地雷復（復活）
巽（風）	天風姤（出会い）	澤風大過（過剰）	火風鼎（安定）	雷風恒（恒久）	巽為風（動揺）	水風井（継続）	山風蠱（腐敗）	地風升（上昇）
坎（水）	天水訟（衝突）	澤水困（困窮）	火水未済（未完成）	雷水解（解消）	風水渙（分散）	坎為水（困難）	山水蒙（曖昧）	地水師（争い）
艮（山）	天山遯（隠遁）	澤山咸（感性）	火山旅（不安定）	雷山小過（過信）	風山漸（漸進）	水山蹇（受難）	艮為山（不動）	地山謙（謙虚）
坤（地）	天地否（閉塞）	澤地萃（集まる）	火地晋（前進）	雷地予（喜び）	風地観（観察）	水地比（親和）	山地剥（崩壊）	坤為地（従順）

1. 乾為天
   - 頭部の病、頭痛、頭重、脳出血、頭部の怪我、胸部の病(肺浸潤)、肺結核、喘息
   - 精神病、発狂、精神病、てんかん、のぼせ、心因性による神経の病
   - 病勢は激しく、治療怠れば激変して危険となる。

2. 坤為地
   - 胃腸、脾臓、肝臓、皮膚病、糖尿病、遺伝病、肋骨の痛み、肋間神経痛、中気、子宮筋腫
   - 憂鬱症、健忘症、元気虚損、過労による倦怠
   - 病勢は進行もしないが治癒もはかばかしくない。気力振起が大切。長患いの場合は警戒を要す。

3. 水雷屯
   - 胃腸病、溜飲、食滞、腎臓病、下痢、膀胱炎、自家中毒、回虫、怪我、婦人病
   - 小児の脳膜炎
   - 初めは病症判然とせず進退定まらず、急変はしないが多くは長引く。湿気、寒、冷気に注意。
   - 幼児の病は重体となる傾向があり。

4. 山水蒙
   - 腎臓病、肺の疾患、小腸の疾患、下痢、動脈硬化、子宮の病、子宮癌、耳鼻の病
   - ノイローゼ、神経衰弱、手足の痛、冷え症
   - 薬効弱く、長引く。子供の場合は重体となる恐れあり。また老人の場合は死にいたる傾向もある。

5. 水天需
   - 胃腸病、腎臓病、肺病、脳病、頭痛、中耳炎、肋膜、肋間神経痛
   - 怪我、腹膨満
   - 軽症と思って油断すると重症となる。性急に治療すれば身体に負担かかり、一歩間違えると持病化する。長引くも根気よく治療する

6. 天水訟
   - 頭に関する病、頭痛、のぼせ、胸部否塞、下痢、気血不和
   - ノイローゼ、不眠
   - 医師の誤診とか薬が体に合わない傾向があり、早急に選び直す必要があり。遺伝性の病に注意。

7. 地水師
   - 胃腸病、腹痛、小腹に腫塊、結石、腎臓病、中耳炎、肋膜炎、月経困難症
   - 脾背の疼痛
   - 激痛を感ずることあり、治療急を要す。長患いは急変に注意。

8. 水地比
   - 胃腸病、食中毒、腎臓病、腹膜炎、胸隔に水毒、眼病、中耳炎、胸部の疼痛
   - 食毒、元気消耗
   - 長患いの場合は警戒を要す。衰弱甚しく、完治には時間がかかる

9. 風天小畜
   - 胸部疾患、頭痛、のぼせ、頭の怪我、腹部の脹満、喀血、月経困難症
   - 躁鬱病、ヒステリー、不食、しゃっくり
   - 長患いの場合は警戒を要す。治療ははかばかしくなく長引く。急変の心配はない。

10. 天澤履
    - 肺結核、肺侵潤、肋膜、咽喉の病、気管支炎、口中の病、胃腸の疾患、心臓病、性病
    - 精神病、溜飲、
    - 長患いの場合は危険性があるが、最近病いにかかったのなら、治療が良ければ早期に治る。急激な病状の変化に注意

11. 地天泰

- 胃腸病、肋膜炎、腹部の膨満、肺病、性病
- 身体倦怠
- 基本的に病気の心配はない時。病気があっても初期の事多い。

12. 天地否

- 肺結核、肋膜炎、脳病気、咽喉閉塞、喉頭癌、声帯の疾患、便秘、中風、月経停止
- 憂鬱症、心因性の病、血行不順、血塊ある疾患、過労
- 精神的な不安から気力なく、次第に悪化。老人は警戒が必要。誤診される傾向あり。

13. 天火同人

- 肺病、脳病、流行病、眼病、頭痛、高血圧、胸部苦悶、腰椎、腰部の疾患、
- 精神異常、腎虚、不眠症、大熱を発する諸病
- 重病の場合には、かなり危険。流行性、伝染性のもの多い。

14. 火天大有

- 肺病、腹部膨満熱病、遺伝性の病、喉の病、浮腫、大熱を発する諸病、
- 精神上の過労によるノイローゼ、神経衰弱、体力消耗
- 重病の場合には、かなり危険。病気を併発することあり。薬、特に売薬の効果は弱い、持病化または重症化のおそれあり。

15. 地山謙

- 肺結核、胃腸病、、下痢胃癌、膀胱炎、腰痛、痔疾、泌尿器科系統、性病、月経不順
- 憂鬱症、自閉症
- 病勢は急変しないが病状停滞して持病化のおそれあり。重病の場合は警戒要す。肺結核の場合は危険につき警戒すること。

16. 雷地豫

- 胃腸病、食毒、腫瘍、胃癌、食道癌、肺病、肋膜炎、性病
- 精神病、ヒステリー、発狂、癇癪もち。心悸亢進、精気消耗
- 病勢は急変しやすいが回復も早い。長患いの場合は一進一退して危険。

17. 澤雷隨

- 肝臓病、胸部疾患、口中の病、嘔吐、性病
- 精力減退、色情に起因する疾病
- 外見はさほど悪くないため手当て怠ると厄介。初期の内に適当な治療必要。長患いの場合は警戒を要す。

18. 山風蠱

- 遺伝性の病、肺結核、胃潰瘍、性病、神経痛、手足の痛み、子宮癌、伝染病、便秘、性病
- 腫瘍、自家中毒、回虫
- 小児の長患いの場合は警戒を要す。病源根深く、根治し難い。

19. 地澤臨

- 肝臓病、胃腸病、肺の疾患、腹膜炎、神経痛、遺伝性の病、伝染病、腹部の水、浮腫、便秘
- 精神病、ノイーゼ、ヒステリー、発狂、躁鬱病
- 長患いの場合は警戒を要す。亢進状態の場合は進行が早い。

20. 風地觀

- 肺病、高血圧、頭重、鼻の病、手足の痛み、流行性の病、性病、流行病、風邪
- 肩凝り、背中の痛み、食欲不振、足のふらつき、のぼせ
- 一見すると軽病に見えて実は重い。持病化のおそれあり。長患いの場合は警戒を要す。

21. 火雷噬嗑

- 消化器の疾病、胃癌、胃潰瘍、肝臓病、食滞、食中毒、口中の腫物、歯痛、歯根炎、熱病
- 狂犬に噛まれた傷、毒虫に刺された腫れ物、刃物の怪我
- 病勢は激しく進む、時には外科的処置が必要、電気療法、鍼灸等も考慮すると良い

22. 山火賁

- 胃腸病、眼病(特に片方の眼が重態)、腹部の腫物、腰部、婦人科疾患、泌尿器科疾患、性病
- 贅沢病一切、美食に過ぎて消化器の疾病、運動不足による心臓疾患、手足の痛み
- 長患いの場合は警戒を要す。持病化する傾向。

23. 山地剝

- 脳出血、頭部の腫物、頭痛、鼻の病胃腸病、癌、手足の痛み、性病
- 神経衰弱、ストレス、躁鬱症、高所より落ちての怪我、肩凝り、背の痛み、過労
- 長患いの場合は警戒を要す。病勢は相当進行していて、重病は危篤。再起不能の兆。

24. 地雷復

- 腹痛、肝臓病、肺病
- 手足の痛み、リュウマチなど、
- 長患いであったものは回復に向う。疾病の多くは再発した病か、再発のおそれあり。一時重体になっても漸次快復する。

25. 天雷無妄

- 頭痛、脳病、肺結核、神経痛、胸部の激痛、心臓病遺伝性の病、怪我(特に足)
- 怪我、打撲症、刃物の傷、腫物、突発的な事故による怪我、
- 精神錯乱、ノイローゼ、てんかん、不食、浮腫。躁鬱病
- 病勢激しく、素人療法危険。大病院を選択するべき。しかし時に自然治癒も。

26. 山天大畜

- 胃拡張、胃癌、頭痛、めまい、頭の打撲、胸部、下腹の膨満、便秘、不食、腫物、血行障害
- 肩こり、腰の痛み、背中の疼痛
- 体力もあり病勢は急に悪化しないが、持病化しないように要注意。

27. 山雷頤

- 胃病、食欲不振、脾臓、肝臓、腎臓の疾患、熱病、腫物
- 口腔の諸疾患、歯痛、歯根炎、口中のできもの、脚気、手足の痛み
- 一進一退して長引く傾向あり。多くは不注意から重くなる傾向。外見より内部思ったより悪い。

28. 澤風大過

- 胸部疾患、肺結核、背隨の病、胃腸病、腎臓病、癌、生理不順、子宮病、流行病
- 下痢、流産の恐れ、アルコール中毒、暴飲暴食、暴淫
- 医者の診断が明瞭でない可能性あり、医者を替え、再診してみるとよい。長患いの場合は警戒を要す。物事過ぎて発病、急病の場合は治療奏功。

29. 坎為水

- 腎臓、膀胱などの泌尿器科系統、肝臓、脾臓、疫痢、下痢、血便、血液病、性病、痔
- 月経不順、子宮病、流産、冷えからくる病身体衰弱、睡眠減退、憂鬱症
- 病根深く、長期にわたって治療要す。

30. 離為火

- 熱病、心臓病、耳の病、目の病、脳の病、乳房の疾患、流行病、血の道(産後の病)
- 精神病神経衰弱、ヒステリー
- 病勢は変化著しく正体つかみ難い。一時の小康に油断しないように。

31. 澤山咸

- 胸部疾患、咽喉、口中の病、伝染病、腹の膨満、肺病から感染した病気、性病
- ヒステリー、性的不能、疲労、
- 多く外部から感染した病気で、初め軽いが次第に重くなる傾向。特に色情の摂生大事。

32. 雷風恒

- 胃腸病、肺の疾患、肺結核、肝臓病、胃腸病、腫物、性病、産後の病
- 精神錯乱
- 久しい間の不摂生とか長病が持病化、慢性化したもの多い。いずれとも急治は困難、辛抱強く治療。

33. 天山遯

- 肺結核、切傷、怪我、肺癌、腰から下の病。便秘、排尿困難、顔の浮種、生理不順、婦人病
- 精神病、精気虚脱、足腰のひきつり、上体熱く下半身冷える症
- いずれも衰弱に向う傾向があり、警戒必要。重病者にはよくないが、即病は治る。外見はよいが、内実衰耗。

34. 雷天大壯

- 頭痛、肺の疾患肺結核、咽喉の病、口中の病、性病、流行病、大熱の出る疾病、
- 精神病、傷害、怪我
- 長患いの場合は警戒を要す。勢い強く悪化早い。油断や不節制が病勢進行の原因となりやすい。

35. 火地晋

- 熱病、心臓疾患、胃腸病、眠り病、頭痛、腫物、瘡毒流行病、伝染病、脳病、熱病、日射病
- 発狂、感冒の熱、寒熱往来
- 流行性の場合は高熱により重体となる恐れがあり、警戒を要す。病勢は次第に悪化、急変に注意。心臓麻痺のおそれあり。

36. 地火明夷

- 胃腸病、心臓病、肺病、眼の病、肝臓病、腎臓病、頭痛、癌
- 発狂、神経衰弱、ノイローゼ、心痛
- 医者の診断が明瞭でない可能性あり、医者を替え、再診してみるとよい。長患いの場合は警戒を要す。表面より内部で悪化している場合多く、治癒困難。

37. 風火家人

- 肺結核、感冒、熱病、心臓病、腫物、脚気、眼病、腫物、痔、生理不順、婦人病
- 寒熱往来、眠り病、精力減退
- 油断をすると重体になる恐れがあり。風邪を悪化させたり、余病がでたりする可能性あり。

38. 火澤睽

- 心臓病、胸部疾患、肺病、頭痛、発熱、嘔吐、食傷、眼病、口中の病、
- 妄語、咳
- 誤診、薬違い、病に悪影響がある食物を食べるなどによる病気の進行。病勢は危急な症状の場合多いが、生命には別条ない。

39. 水山蹇

- 腎臓病、耳鼻の病、消化不良、膀胱、泌尿器科の疾病、子宮癌、子宮の病、婦人科病、性病
- 足の怪我、歩行困難、指、背、腰、関節の痛み、冷えから来る病
- いずれの病も慢性となり持病化する傾向があり、警戒要する。

40. 雷水解

- 胃腸病、食滞、胃熱、下痢、肺病、性病、生理不順、下血
- 手足の病、腰の痛み、肝癪、冷えから来る病
- 油断をすると悪化する恐れがあり。内部の病根表面化して発病、治療困難。しかし、長患いは回復に向う。

41. 山澤損

- 肺病、腫物、血行不順、大小便渋滞、月経不順、過労又は過淫による脳病
- 不食、体力衰弱
- 病状は回復に向かう。但し老人の場合に限り元気消耗し、悪化する傾向があり。栄養を摂取し養生する事により体力をつけること。

42. 風雷益

- 肺結核、肋膜、肝臓、気管支炎、神経痛、胃けいれん、子供のカンの虫、肋間神経痛、中風
- 風邪による疾患、精神分裂、健忘症、季節的悪性伝染病、月経不順、産後の不調
- 病状は長引き、進行する傾向有り、よい医者に掛かるか、医者を変えた方がいい可能性もあり。長患いは小康を得る。

43. 澤天夬

- 頭痛、肺病、口中の病、嘔吐、血行不順、血行不順、浮腫、便不通
- 頭部の怪我、狂乱、錯乱
- 病勢進んで急変悪化に至る。重症者には、厳しい状況。

44. 天風姤

- 肺結核、頭痛、脳溢血、感冒、流行病、脱肛、痔疾、産後の浮腫
- 半身冷痛、脚、膝の麻痺、神経衰弱、精力減退
- 最初は軽症に見えて実は重症のこと多く、油断できない。また、長患いの場合は警戒を要す。頓死の意もあり。

45. 澤地萃

- 胸部疾患、肺結核、痰咳、胃腸の病、胃癌、食毒、便秘、悪瘡、水腫
- 飲食物停滞、動悸、二つの病の併発
- 治癒進捗せず病勢次第に募り回復困難となる。また、重病人の場合はかなり危険。

46. 地風升

- 胃腸病、助膜炎、食毒、腹痛、嘔吐、下痢、腹内腫塊、胸部疾患、頭痛
- 発狂、四肢のひきつり、腰背の痛み、麻痺
- 風邪が原因のこと多く、病勢は次第に激しくなる。長患いの場合には。次第に悪化する傾向あり。

47. 澤水困

- 口中の病(歯など)、痰咳、腎臓病、中耳炎、性病、下痢、吐瀉、痔疾
- 食欲減退、精力虚損、過労が原因の諸症
- 多く難症で手当怠れば持病化、又は衰弱の一途。重病は警戒要す。

48. 水風井

- 胸部疾患、気管支、腎臓病、腫物、瘡毒、中耳炎、血行不順、遺伝性の病、婦人病。
- 躁鬱病、神経衰弱、老人は中風
- 病勢は一進一退して長引き、一時回復しても再発のおそれあり。

49. 澤火革

- 口中の病、不食、咽喉、声の枯れ、胸部疾患、咳、喀血、便不通、女性の貧血、
- めまい、熱のある病
- 病状変化の時。老人の場合はかなり警戒すること。

50. 火風鼎

- 眼病、心臓病、胸部疾患、伝染性熱病、浮腫、中風、大小便秘結、女性貧血
- 精神病、日射病、めまい、眠り病
- 医者か薬を変えることで、見通しが明るくなる。病勢は変動が多い。

51. 震為雷

- 肝臓、神経痛、手足の痛み、移動性神経痛、肋間神経痛、リウマチ
- 発狂、ヒステリー、てんかん、癲癇、赤ん坊のひきつけ
- 外見程には悪くない。変動は起きやすい。

52. 艮為山

- 脳充血、肺結核、癌、中風、耳鼻の病、身体不随、身体の痛み、手足の病
- 不食にして下痢
- 病勢は進まないが薬効現われにくく持病化しやすい。長患いの人は全治しない傾向があり。

53. 風山漸

- 頭痛、胃熱、胃弱、肺の病、癌、風邪による痛み、身体の痛み、手足の病、身体麻痺
- めまい、悪心、腫物
- 風邪が原因のこと多く、病勢は次第に激しくなる。外見を見て油断は禁物。早めの治療が大事。

54. 雷澤歸妹

- 胸部疾患、口中咽喉の病、声帯の疾患、歯痛、リュウマチ、手足の疾病、月経不順
- 神経衰弱、ヒステリー
- いずれの場合も長引く傾向が強く、急には治らない。色情、過淫が原因のことあり。

55. 雷火豐

- 不意に熱の出る病、頭痛、眼病、心臓病、性病、流行性の疾病、婦人病
- ヒステリー、精神異常、精気虚脱、火傷、流産
- 長患いの場合は警戒を要す。病勢が強く悪化早い。激しく急変もあり。

56. 火山旅

- 目の病、鼻の病、腎臓病、肝臓病、熱病、伝染病、腫瘍、腰痛、中風、半身不随
- 神経衰弱、ヒステリー、躁鬱病、視力障害
- 始めは軽症であるが次第に重く、一時の小康に油断は禁物。重病人の場合は死出の旅路につく、ということで警戒要す。

57. 巽為風

- 感冒、胸部疾患、気管支、中風、小児麻痺、腸の諸病、脱肛、痔、婦人病、ばい菌による伝染病
- 憂鬱症、神経衰弱、ノイローゼ、
- 長患いの場合は警戒を要す。病勢が強く悪化早い。激しく急変もあり。病根深い傾向。

58. 兌為澤

- 口中の病、咽喉の病、痰咳、虫歯、喘息、胸部疾患、胃腸病、腎臓、膀胱
- 精気消耗
- 治療が遅れると、長引く傾向有り。重病人の場合は警戒要す。

59. 風水渙

- 胸部の病、気管支、肺結核、感冒、腎臓病、勝胱、胃腸疾患、耳の病、腫物、痔、性病、婦人病
- 産後の疾患
- 長患い、重病の場合は警戒を要すが、その他は快方に向う。漢方薬に効あり。

60. 水澤節

- 口中の病、歯病、胃腸病、腎臓、胸部の疾患、肺結核、膀胱、中耳炎、水疱瘡、季節的伝染病
- 嘔吐、婦人病、性病
- 病根深く、急治困難だが、気長に治療することで効あり。

61. 風澤中孚

- 心臓病、熱病、眼病、胸部疾患、便秘、性器の疾患、生理不順
- 神経衰弱、ヒステリー、ノイローゼ
- 熱を伴いながら病勢募り、回復には手間どる。

62. 雷山小過

- 腎臓病、肝臓病、胃癌、膀胱、中耳炎、神経痛、冷えからきた病、下痢、下血
- 神経衰弱、精神分裂症、躁鬱病、脊髄の疾患、難産、流産、怪我
- 見かけよりも重病、病根深く、治療長引く。

63. 水火既濟

- 心臓病、目の病、腎臓病、便秘、流行性感冒、貧血症、性病、生理不順、婦人病
- 神経衰弱
- 一見して軽症に見えて病源深い。過淫が原因の事多い。

64. 火水未濟

- 心臓病、眼病、腎臓病、熱病、中耳炎、腎臓、膀胱、血行不順、下痢、痔
- 神経衰弱、ノイローゼ
- 早急に専門医の診断を仰ぐ、手遅れになると、ひどく悪化する。難病の場合は治癒困難の傾向あり。

無断転載を固く禁じます